

2025/09/19

⑫Candi Barong

人文社会科学部 2 年生

1. バロン寺院

バロン寺院はヒンドゥー教の寺院で、海拔約 199,27m のバトゥールアグン丘に位置している。バロン寺院の周りにはミリ寺院、ダマンサリ寺院、ガネーシャ像、ラトゥボコ遺跡などのヒンドゥー教の寺院が多く存在している。「バロン」とは「魔除け」という意味である。発見時に他の寺院と比べてバロンが多くあるため「バロン寺院」と名付けられた。ヒンズー教の多いバリ島の言葉でこのような魔除けのことを「バロン」というが、ジャワ語では「カラ」といい、どちらも同じ意味を指す。バロン寺院のバロンの特徴は舌があることである。右の写真がプランバナナ寺院のバロンで、左の写真がバロン寺院のバロンである。比較するとプランバナナ寺院のバロンには舌が無いことが分かる。舌は「寺院に悪いものが入らないように舌で悪いものを取り、人を神聖にするため」にあるとされる。



2. 神様

バロン寺院はヴィシヌ神とスリ女神を崇拝する場所あると考えられている。周囲の環境が農作物を作ることに向きだったため当時の人々は豊作を祈るために崇拝しており、生活と深く関わっていた。

3. 歴史

西暦 9 世紀～10 世紀に古マタラム王国によって建設され、20 世紀初めに発見された。1987-1992 年に修復工事が行われ、続けて敷地の周りの壁や堀の整備が行われた。実際に寺院の階段には次の写真のように「1993-1995」と彫られた跡を見ることができた。



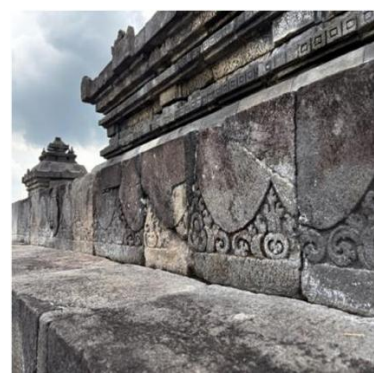
4. 発見されたもの

修復時にはヴィシヌの像、デウイ・スリ（スリ女神）の像、ガネーシャ像などを含む多くの当時のものが発見された。他にも陶器や瓶、斧の先端、スプーンなども発掘された。また、この寺院の周りにはまだ発見されていない寺院があるとされる。しかし、どのような寺院かはまだ分かっていない。



5. 建築の特徴

敷地を囲む石垣が日本の城の石垣と似ていて斜めに造られている。寺院に関しては、壁の側面には力持ちのシンボルとされる「ガナ」が彫られている。舌のあるバロンは門や2つ残っている寺院のそれぞれ4つの壁に彫られていて、たくさんのバロンを見ることができる。寺院の下に積まれている石には細かい模様がいくつも彫られている。



6. 修復後

修復後は修復した寺院の 1 段目の石には上がることが出来るが上部はオリジナルのままであるため上ることが出来ない。また、石垣は修復した部分と オリジナルの部分が混合している状態である。



7. まとめ

バロン寺院はヒンドゥー教の寺院であり、舌がある魔除けのバロンがたくさん彫られていることが特徴で、舌は悪いものを舌で取り去るためにある。石には細かい装飾や、力持ちの象徴とされる「ガナ」が彫られている。近くにまだ発掘されていない寺院がある可能性があり、今後の新たな発見が期待される寺院である。